

テーマ「精神障がいの自立支援」と「看護マインド」の本質を捉える

訪問看護は、その方のホームグラウンドに入っていくお仕事です。その方に拒否されたらスタートできません。その方のニーズに応えようと、気持ちにより添って傾聴したり、時には「買い物」や「入浴介助」などの代理行為をやってしまったりと、目の前の問題をすぐに解決しようと動きがちな看護師。その結果……(；°ロ°)
▶▶▶▶▶▶▶▶「振り回される」と感じる利用者さんの事例演習を通じて▶▶▶▶▶▶▶▶

●●看護師みたいに話
聞いてくれないと、
注射打ってあげない！



この利用者さん、苦手
だな。でも、話を聞か
なきゃ。辛い、でも誰
にも言えない……

事例 Aさん

精神発達遅滞 糖尿病があり、インスリン
注射が必要ですが、保健行動を促すため、

訪問看護がスタート。看護師は、なんとか注射を打ってもらうため、あの手この手で四苦八苦……の末。

🗣️「なぜ？」グループワークでディスカッションを通じて、対象の捉え直しと看護マインドを考える

「依存的」「うまくいかないことがあるとストレスを抱えリストカットなどの自傷行為を行う」「周りの人を振り回す」という困った人。その人たちはパーソナリティ障害と呼ばれる人かもしれません。Aさんもその一人。

「なぜ、自分で注射を打たなくなった？言動の変化の理由は？看護師は、なぜ辛さを誰にも言えなかったの？」などの質問を通じて、様々に意見交換が行われました。

まとめ～困難ケースへの対応で役に立った考え方や行動～By 主任 廣瀬 Ns.

このページをご覧になっているあなたが看護師さんであれば、少しでもお役に立てたなら、ありがたいです。少しだけ、エッセンスをご紹介しますね☺

- 👉 支援者に依存的にならないよう、一緒に課題を解決するためご本人にも考えてもらい、困ってもらいます。問題を解決するのは自分自身であるという、主体性を育てるのです。
- 👉 看護師自身の満たされない心の隙間を埋めるため、不安を解消するための“支援”になっていないか、自己満足目的ではなく、利用者さんのセルフケア能力を向上させているか、支援者の自己理解が必要です。
- 👉 なんでも言い合える職場＝「心の安全基地」を作りましょう。

ネガティブな感情を抱え続けることはバーンアウトにつながりやすいです。かかえたモヤモヤは仲間に向けて発信しましょう。仲間は、相手の感性を受け止め、肯定しましょう。肯定が心の安定を作り、利用者さんの心の安定ももたらします。

この研修後の職場課題

各職場で研修後の「モヤモヤ」の共有、「振り回される」と感じる利用者の交流、職場におけるストレス対処についてカンファレンスしてまとめる。続報もお届けしますね、お楽しみに☺